



PROFILE

1982年イギリス出身。フィリピンとスコットランドのハーブで小学生の時に来日。高校生になってからタレント活動を開始し、テレビ、ラジオ、ライブなどで幅広く活躍している。昨年、台風30号「ハイエン」の発生に伴うフィリピンの被害者を支援するためにチャリティーイベントを行った。

昨年11月、母の祖国であるフィリピンを大型台風が襲いました。日本でも連日被害の様子が流れ、家族や友人たちのことを思うと、気が気ではありませんでした。すると、日本の友人たちが「どこに寄付すればいいの?」と声を掛けてくれたのです。最初は個人的に知っている団体を紹介していたのですが、「私を信頼して聞いてくれている。もっとできることがあるのでは」と思い始めました。みんなが心配していたのは、何か力になりたいけれど、それがきちんと現地の人たちに届くのかということ。それなら自分でやってみよう!と、チャリティーイベントを開くことにしました。

まずは場所を押さなければと、知り合いのフィリピン料理のレストランにお願いに行きました。「そんな風に真っ先に行動してくれてうれしい」と、お店の方も喜んでくださいました。番組で共演している方々なども応援してくれることになり、何か関われる方法をみんな探していたのかなと思いました。プロジェクト名は母に相談して、「Hatid ng

Pusong Puso」と名付けました。タガログ語で「心を贈る」という意味です。日本でフィリピンの人たちのことを心配しているみんなの心を届けたいという思いを込めました。

イベント当日はたくさんの方が集まり、その温かい心に触れて、「直接行って、フィリピンの人たちに届けたい」という思いが強くなりました。事務所のスタッフに相談すると、行ってこい!と背中を押してもらって。知り合いを頼って、台風が直撃したレイテ島から少し離れたイロイロ島に向かいました。

避難所に使われたという教会に行くとも屋根が吹き飛んでしまっていて、今回の台風の被害がいかに大規模なものだったかを感じました。現地の人たちは、それを修理してほしいというのです。教会さえあれば、何かあっても神様が守ってくれるからと。物よりも信じる心、安心できる場所が大事なんだと、現地を訪れてあらためて感じました。

イロイロ島の子どもたちは「この人誰?」と最初は警戒していたのですが、

私がタガログ語で話し掛けると、わーっと歓声が上がりました。厳しい状況の中でも元気いっぱい生きる姿を見て、彼らのためにもっと力になりたいと思いました。

台風が直撃してから、半年がたとうとしています。まだまだ復興が進んでいない場所もあって心が痛みます。実は第二弾のイベントを企画中で、また現地に足を運びたいと思っています。本当に必要とされる場所に、必要とされているものが届くような協力を長く続けていきたいのです。

そして今後は、フィリピンだけでなく、他の国でも困っている人がいたら、自分が声を上げて行動できるようになりたいと考えています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索